



JAグループ鳥取のJA自己改革の取り組み



今回は、第49回 JA 鳥取県大会（平成30年11月）の大会決議の実践振り返りと、令和3年11月12日に開催した第50回 JA 鳥取県大会の大会決議内容について報告します！

第49回 JA 鳥取県大会決議の実践振り返り



役員の家来訪問による対話運動



子ども食堂への食材支援



トップセールス、TV会議で特産PR

「持続可能な鳥取県農業の実現」に向けては、組合員との対話運動や営農指導研修の実施など、生産基盤の整備により農家所得の向上と後継者育成に取り組みました。また、SNS等の活用による鳥取県ブランド確立に取り組みました。

「地域社会への貢献」に向けては、子ども食堂や学校給食への食材提供や女性会と連携したJA施設でのサークル活動実施など、地域貢献活動に取り組みました。

「協同組合としての役割発揮」に向けては、組合員大学・女性大学の実施や広報誌・HP・新聞折込等を活用した積極的な情報発信など、協同組合理念の浸透と実践に取り組み、JA組織基盤と経営基盤の強化に取り組みました。

直近の取り組み

新型コロナワクチン職域接種を実施



JA 鳥取県中央会は、県内の医療機関の協力・支援で東部、中部、西部の3カ所に会場を設け、県内のJAや生協、森林組合などの職員や家族、組合員を対象に新型コロナワクチン職域接種を実施しました。

9月11日から10月24日にかけて延べ8,691人が2回の接種を完了しました。効率よく接種するため、JAグループや協同組合組織など約30団体が協力し、受付や会場誘導などに職員を派遣して行いました。安全・安心な職場環境を維持し、組合員や利用者サービスの向上につなげて、暮らしやすい地域社会に貢献します。

第50回 JA 鳥取県大会 決議内容

5つの取り組みの柱

- 1 持続可能な農業基盤づくり
- 2 持続可能な地域・組織基盤づくり
- 3 「持続可能な農業・地域・組織基盤の確立」を支えるJAの土台づくり
- 4 協同組合としての役割発揮を支える人づくり
- 5 「食」「農」「地域」「JA」にかかる国民理解の醸成

第50回 JA 鳥取県大会においても、JA グループ鳥取の3つの「めざす姿」は第49回 JA 鳥取県大会から大きく変わらないとし、「持続可能な鳥取県農業の実現」「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」「協同組合としての役割発揮」の実現に向け、取組実践方策を決議しました。

「めざす姿」の実現に向けては、左記の5つを取り組みの柱として位置付けます。取り組みの実践にあたっては「組合員との対話」を基本に、これまで以上に組合員と密接な関係を構築し協同組合の力を最大限に発揮することで、危機を乗り越え、持続可能な農業・地域の未来づくりに取り組みます。

決議内容の詳細は、[折り込みしております](#) JA 鳥取県大会議案【ダイジェスト版】をご覧ください。